

あの頃の風景

おくのほそ道 第3回

江戸時代から島守がまもる

「象潟」

株式会社エイト日本技術開発/技術本部/技術企画部
村山千晶 MURAYAMA Chiaki (会誌編集専門委員)



『象潟や雨に西施がねぶの花』



① 潟時代の様子が描かれている『象潟図屏風』。中央が蛸満寺。手前が日本海

芭蕉が訪れた1689年頃、象潟はまだ海水が出入りする浅い潟湖であった。南北3km、東西1.5kmほどの範囲の水面には、松が生い茂る小さな島が点在し、その奥に鳥海山がそびえる、江戸にも聞こえた有名な景勝地であった。現在は、にかほ市に含まれる地域で、秋田県の最南部に位置する。

芭蕉は『おくのほそ道』の旅で、「東の松島、西の象潟」と称された歌枕の地を両方訪ねたかったのだろう。松島と比較して穏やかな象潟の景色を、雨に葉を閉じた合歓の花と、越の国の美女西施の憂い顔に重ねて、「象潟や雨に西施がねぶの花」と詠んだ。

しかし、美しい潟湖は1804年の象潟地震(推定マグニチュード7.1)で湖底が約1.8m隆起したため海水が入らなくなり、陸地化する。江戸時代の新田開発から後の土地改良に至る流れを思えば、当然、島を崩して開墾されてしまっても不思議ではない。ところが、地震以前に描かれた『象潟図屏風』に見える島々と、現在残されている島々の多くが一致している。実は、象潟の

風景には、江戸時代から現在に至る農村景観保全の歴史が秘められているのだ。

江戸時代には既に名勝地として有名であったため、1690年頃には本荘藩により開墾が禁止されていたことが窺えるという。その後、藩は各島に管理責任者である「島守」を任命し、植樹や石垣整備などを担わせた。また管理の中心的役割を蛸満寺が担うようになった。

しかし隆起後には、島も崩す大規模な開墾が始まってしまふ。これに危機感を覚えた蛸満寺住職覚林は1810年、藩へ景観保全を訴えた。嘆願はすぐには聞き届けられなかったが、覚林は閑院宮家という後ろ盾も得て、各所に書簡を送り続けている。伝統文化継承の担い手としての公家の存在は無視できなかったらしい。この運動の甲斐あってか、藩主導の新田開発は中止となり、島々が残ったといわれている。

明治以降も島守による自主的な管理が継続されていたが、1934年に晴れて天然記念物に指定されたため、改変が禁止され、逆に荒れてしまったという。農業



②(上) 中の橋(欄干橋)(1955年頃)。芭蕉はここから船に乗り島巡りをしたという
③(右) 橋のたもとには「船つなぎ石」が残されている



⑥(右) 変わらない風景が維持され、歌枕の地を巡る遊歩道も整備されている
⑦(下) 能因島と水田(1950年代前半)。水がはられ、潟時代の九十九島を彷彿とさせる



④(上) 潟時代の蛸満寺。デフォルメされているが、文人墨客が訪れた往時の雰囲気を表す
⑤(左) 古景図にある西行桜も再現され、今なお歌枕の地の一つである



⑧(左) 港が整備され、海岸や山の植生も変化している
⑨(下) 荒屋下の船置場より鳥海山を望む。(1950年頃)



や観光に悪影響が出たため、町役場や農家による下草刈りや植樹が認められる。平成に入ると松食い虫対策の薬剤注入を契機として、民間希望者による「巡視員」制度、ボランティア団体「九十九島の松を守る会」、町所有の島の管理を委託する「島守り」制度などが発足し、地域住民が主体の保全活動が進められている。島所有者による手入れも行われており、江戸時代からの島守の方式を今日まで継いでいると言える。

かつて、芭蕉が訪れた汐越(塩越)の港は海水浴場となり、トライアスロン大会も開催される。今、にかほ市には鳥海山をはじめ、その伏流水がつくる湿原、風力発電の並ぶ仁賀保高原、江戸時代からある波除け堤防、冷たい水を暖めて農業用水に使用するための上郷温水路群など、象潟九十九島以外にも不思議な風景がたくさんある。

そして、何よりこれら自然と人が作り上げてきた奇景を眺めながら味わう、名物、天然岩牡蠣が格別なのである。

<参考文献>

- 1) 『奥の細道 現代語訳・鑑賞』山本健吉 2010年 飯塚書店
- 2) 『近世出羽国「象潟」一名所・名勝における歴史的景観の保存と開発』長谷川成一 文経論叢 人文学科篇 弘前大学 1992年
- 3) 『近世象潟の景観 初期象潟図と景観保全』長谷川成一 【季刊 東北学】第20号 2009年 柏書房
- 4) 『失われた景観 名所が語る江戸時代』長谷川成一 吉川弘文館 1996年
- 5) 『象潟の景観形成過程と保全に関する研究』佐々木祐介、三宅諭 農村計画学会誌 25号 2006年

<取材協力>

- 1) 蛸満寺
- 2) 象潟郷土資料館、にかほ市教育委員会
- 3) にかほ市総務部企画情報課
- 4) 国土交通省 東北地方整備局 秋田河川国道事務所

<写真・資料提供>

- ① 象潟郷土資料館蔵 「紙本着色象潟図屏風」(牧野永昌)六曲一双のうち左隻
- ② 国土交通省 東北地方整備局 秋田河川国道事務所WEBサイト「なつかしの秋田の道」
- ④ 蛸満寺蔵の「象潟古景図」(牧野雪庵)の一部(蛸満寺周辺)
- ⑦、⑨ 「百年の鼓動 象潟町制施行百周年記念写真集」(象潟町 1996)